

医学部カリキュラムについて

東北医科薬科大学医学部のカリキュラムは、本学の教育理念を基本に、本学医学部の使命を達成すべく、教育課程の編成・実施方針 [カリキュラム・ポリシー] に則って、養成する人物像を明確にした6年制の一貫教育として組まれている。具体的には、本学医学部学生が卒業時に修得しておくべき学修成果 [アウトカム] とそれを達成するために身につけるべき能力 [コンピテンシー] を明確にし、卒業までにその能力が段階的に獲得されるように、様々な科目群を関連付けながら教授していく学修成果基盤型教育 [outcome-based education: OBE] である。

教育課程の編成・実施方針 [カリキュラム・ポリシー]

本学医学部の使命を果たすために、地域の医療ニーズを理解し、多職種および行政と連携しながら医療を提供することにより、地域住民の保健・福祉の向上に貢献できる幅広い臨床能力を有する医師の養成を可能にする教育課程を、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠しつつ本学独自のカリキュラムを加えて、編成・実施する。

1. 心豊かな人間性を備え、生命の尊厳について深い理解を持つ医師を育むために、人文科学から臨床医学へ連続性ある倫理教育を実施する。
2. 病める人を生活者として全人的に捉える広い視野を育むために、講義と地域での体験学習を効果的に連動させる。
3. 地域医療に対する理解を深め使命感を醸成するために、同じ地域を繰り返し訪問し、多職種の医療人および地域の住民や行政と連携しながら学ぶ、地域滞在型教育を行う。
4. 総合診療医を目指すために、地域医療の理解から総合診療力の養成へと段階的に学習する実践的な教育課程とする。
5. 救急・災害医療（放射線災害を含む）に対応できる医師を養成するために、特色ある体験学習や演習科目を編成する。
6. 問題発見能力、問題解決能力、自己研鑽能力を育むために、問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表などの主体的・能動的学習を取り入れる。
7. 効果的な修得のために、関連科目間の横断的および縦断的統合を図った教育課程とする。
8. アウトカム基盤型教育と適切な学習評価を実施する。
9. 多様な参加型臨床実習など医学教育の国際化に対応した教育を実施する。

卒業時に修得しておくべき学修成果 [アウトカム]

1. 高い倫理観と責任感を持ち、多職種連携のもと、患者中

心の医療を実践できる。

2. 幅広い医学的知識・技能を持ち、生涯にわたり自己研鑽できる。
3. へき地・被災地の特色を踏まえた包括的な医療を実践でき、地域社会の発展に貢献することができる。

身につけるべき能力 [コンピテンシー]

- I. 倫理観と社会的使命：豊かな人間性と高い倫理観を有し、社会的使命を果たす確固たる意志をもって、患者中心の医療を実践できる。
- II. 人間関係の構築：他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築し、医療の現場で適切なコミュニケーションを実践することができる。
- III. チーム医療の実践：多種多様な医療チームのメンバーを理解・尊重し、協同作業の中で、医師としての役割を果たすことができる。
- IV. 医学および関連領域の基本的知識：基本的医学知識および薬学、生命科学などの関連領域の知識を示すことができる。
- V. 診療の実践：診療技能に加え、患者背景および医療安全への配慮を含めた全人的な診療を実践できる。
- VI. 社会制度の活用と予防医学の実践：保健・医療・福祉の社会制度を理解し、その活用により疾病の予防や健康増進を実践することができる。
- VII. 科学的探求と生涯学習：豊かな感性と批判的精神で真理を求め、自分の意見を的確に発信し、自らの能力の継続的な向上を図ることができる。
- VIII. 地域における医療とヘルスケア：地域における医療のニーズと現状を理解し、地域社会の医療資源を活用した包括的医療を実践できる。

科目群

- 基礎教養：人文科学系科目により、医療人である前に、一社会人・一職業人としての教養・素養（リベラル・アーツ）を修得する。また、患者を一生活者として捉える視点の育成につなげるために、個人の価値観、人生観の多様性を尊重する心を育む。社会科学系科目により、医療もあくまで社会制度の一部であることを前提として、社会全般の理解を深める。
- 準備教育：『基礎医学』の学習に当たり、基本的な知識や技能を整理・習得する。
- 行動科学：『基礎教養』で学んだ「人」や「社会」の理解をもとに、患者および家族の生活者としての多様性を全人的に理解する姿勢を養う。

○ 社会医学：『基礎教養』で学んだ「人」や「社会」の理解をもとに、患者や住民を集団として捉えて、医学の社会的役割や制度を学習する。

○ 基礎医学：『準備教育』の知識をもとに、『臨床医学』の学習の基礎となる自然科学的知識を学習する。

○ 臨床医学：『基礎医学』の知識をもとに、様々な病態、診断、治療について学ぶ。

○ 前臨床実習：診療技能や臨床推論について学ぶ。

○ 臨床実習：『行動科学』、『社会医学』、『臨床医学』および『臨床実習前教育』で学んだ知識・技能・態度を活用して、医療の実際を学ぶ。

○ 統括講義：6年間の学習内容の総括。

これらの科目群の段階的な関連性を「カリキュラムツリー」として示す。

達成レベル

コンピテンシーの修得は、関連する科目（「カリキュラムツリー」を参照）を段階的に学ぶことにより達成される。例えば、コンピテンシーⅠは、『基礎教養』の「現代社会と人間」（1年次前期）、『行動科学』の「早期医療体験学習」（1年次前期）、『社会医学』の「地域医療学」（2年次前期）・「介護・在宅医療体験学習」（2年次後期）、『臨床実習』の「診療科臨床実習」・「総合診療学演習」・「地域包括医療実習」（4年次後期～6年次前期）などの科目を学年進行順に学んでいくことにより卒業時まで修得する。この際、科目毎に、コンピテンシー修得の「達成レベル」（表1）を設定し、学習の進行により修得度が向上する仕組みとなっている。

一方、ひとつの科目が、いくつかのコンピテンシーの修得に関わることもある。例えば、『行動科学』の「チーム医療体験学習」（1年次後期）は、コンピテンシーⅡおよびⅢ、Ⅴに、『社会医学』の「僻地・被災地医療体験学習Ⅰ」（2年次前期）は、コンピテンシーⅢおよびⅥ、Ⅷの修得に関わる。各科目のシラバスには、その科目の学習により修得を目指す達成レベルがすべてのコンピテンシーについて記載されている。例えば、「チーム医療体験学習」では、Ⅰ-C、Ⅱ-C、Ⅲ-C、Ⅳ-E、Ⅴ-E、Ⅵ-E、Ⅶ-F、Ⅷ-Eなど。

このように1年次から6年次へと進級するに連れて、コンピテンシーのレベルがFからAへと上がっていく。そして、卒業前の最終科目である臨床実習の習得により、8つのコンピテンシーの全てが最終目標であるレベルAに到達するカリキュラムとなっている。

各科目の教育目標と成績評価

各科目には、教育目標として、一般目標（Generalized Integrated Object: GIO）とそれを達成するための具体的な到達目標（Specific Behavioral Objects: SBOs）が設

定されている。我が国の医学教育が目指す普遍的な医師像に求められる『医師として求められる基本的な資質』とその資質を養成するためのコアとなる教育内容（知識・技能・態度）は「医学教育モデル・コア・カリキュラム」（巻末に記載）として整理されている。各科目のGIOとSBOsは、コンピテンシー修得のために設定されており、従って、「医学教育コア・カリキュラム」のSBOsに加え、本学独自のSBOsを追加している科目も存在する。

各科目の成績は、当該科目の「達成レベル」（表1）を基準にして、当該科目のSBOsの達成度により評価する。

シラバス

各科目のシラバスは、上に述べた本学医学部カリキュラムの特徴を踏まえて作成されている。従って、シラバスを熟読し、アウトカムの修得に向けた個々の科目の位置づけおよび科目間の関連性を十分に理解することは、効果的な学習に欠かせないものである。日々の学習による小さな成長が相加的・相乗的に積み重なって、必要とされる能力が形成されていくことを十分に認識して、6年間に有意義に過ごしてもらいたい。

学習の進め方

将来、社会に貢献し、己の使命を果たすためには、医師の資格は必須である。医師の資格を取得するためには、当然のことながら卒業し、医師国家試験に合格しなければならない。医師国家試験で問われる内容（次頁）を含め、地域社会の中で医師として貢献するために必要な資質を、上に述べたように、学年を追って順次修得できるように組まれている。従って、学生諸君の日々の学習とは、授業当日の復習により理解を確認しておくこと、またその理解においてこれまでに学習した関連科目（シラバスに記載あり）の内容を関連付けることに尽きるのである。

このような学習のために、授業内容のデータを収録した「授業資料共有フォルダ」（学生便覧参照）を科目毎に設置してあるので、予習、復習に活用すること。最後に、本学医学部の教育は、大学の教職員だけで成り立っているわけではないことを肝に銘じて欲しい。学外の医療機関や各種職能団体、行政関係者、そして患者さんやその家族の方々のご理解とご協力、さらに一般社会からのご支援があって、学生諸君は医師を目指すことができるのである。このことを常に意識して、本学医学部生としての責務を果たして欲しい。